

JCAAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

ワシントン日本商工会会報

6月号

2026年 No. 583

目次

- 第31回商工会テニス&ポトラック・パーティー
開催報告……………2
- 研修会報告「The Elections that Could Change
Everything: An Insider's Guide to the 2026
Midterms」……………4
- ワシントンで働く女性の会 (J-WIP)
第34回活動報告……………5
- ワシントン日本商工会 新任理事のご挨拶…………7
- 嶋田理事退任のご挨拶……………9
- 永森理事退任のご挨拶……………10
- 会員紹介コーナー……………11
- 広告募集のご案内……………12
- やさしいコミュニケーション
「③ 敬称と役職の関係」
Shiori Communications 岡崎 詩織……………13
- 米国での生活と移民法
第92回「移民法最新情報: FIFAワールドカップ編」
米国移民法弁護士 石田 砂織……………15
- 今月の書籍紹介「マクナマラの戦争」
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子……………20
- English Rescue by Jennifer
「Language and Culture」……………22
- 編集後記……………25

今月の特集

「第31回商工会テニス&ポトラック・パーティー開催報告」

本年も本イベントを無事開催いたしました。参加者の皆さまには、ポトラックで持ち寄られたお料理を楽しみながら親睦を深めていただくとともに、テニスやピククルボールを通じて、世代やレベルを越えた交流の時間をお過ごしいただきました。。P.2～



「ワシントン日本商工会 理事交代のご挨拶」

理事の顔ぶれが変わり、新たに2名の理事を迎えることとなりました。新しい視点と経験を活かしながら、今後も活動を進めてまいります。また、当会のためにご尽力いただきました前理事のお二人に、心より御礼申し上げます。P.7～10

連載

「米国での生活と移民法

第92回『移民法最新情報: FIFAワールドカップ編』

ワールドカップ開催に伴い、会員の皆様の中にも観戦旅行を予定されている方がいらっしゃるかと思います。期間中は、米国入国審査や国内移動時の移民法上の確認が通常より厳しくなる可能性があるようです。今月は、FIFA PASS、電子機器検査、書類携行義務、ESTA・永住権者の注意点、自動ビザ再認証制度などについて、具体例を交えながら分かりやすくご解説いただきました。P.15～

JCAW Copyright © 2026 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

第31回 商工会テニス&ポトラック・パーティー開催報告

企画担当理事：永森 洋祐



2026年5月16日(土)夕、今年も恒例の「商工会テニス&ポトラック・パーティー」をYMCA Arlington Tennis & Pickleball Center (<https://ymcadc.org/locations/ymca-arlington-tennis-pickleball-center/>)にて開催いたしました。これまで本イベントは秋に開催し、春にはソフトボール大会を実施しておりましたが、5月は天候が不安定な日が多いことから、今年は天候に左右されないインドアでのテニスイベントを5月に開催する運びとなりました。

今年度は60名近くの参加者と4名のコーチにご参加いただき、例年同様、テニスとポットラックを通じた交流をお楽しみいただきました。イベントは、まず会場内ラウンジにてポットラック形式の懇親会からスタートしました。参加者の皆さまにお持ち寄りいただいた多彩な料理やデザート、スナックなど数々の品が並び、和やかな雰囲気の中で交流が行われました。今年はポットラックのみご参加された方も多く、例年好評の本企画は一層の盛り上がりを見せ、普段味わう機会の少ないお料理を楽しむ貴重な時間となりました。また、お子様連れでのご家族参加も多く見られ、仕事や地域、日常生活に関する情報交換に加え、ご家族同士の交流も活発に行われるなど、大変賑わうネットワーキングの場となりました。

ポットラック・自由時間の後は全員でコートへ移動し、開会式および集合写真の撮影を行った上で、運営側よりルールや注意事項の説明を行いました。

その後、レベルに応じて各コートに分かれ、プレーを開始しました。インドアコート全8面を貸し切り、そのうち2面で





はキッズ向けおよび未経験者・初心者向けのレッスンを実施しました。上級者コーチによる丁寧で分かりやすい指導は毎回好評で、大人も子供もリラックスしながらプレーを楽しんでいる様子が見られました。今年は約10名の子どもたちが参加し、ボールを追いかけて元気に走り回る姿が印象的でした。



残るコートでは、中級者から上級者までがペアを組み、ダブルス形式の試合が行われました。レベルの高いラリーが各所で繰り広げられ、参加者の皆さまは汗を流しながら真剣にプレーに打ち込んでいました。さらに、例年に続きピクセルボール専用コートを1面開放し、自由にプレーをお楽しみいただきました。見た目以上に運動量の多い競技ということもあり、プレーヤーの皆さまはコート内を軽快に動き回りながら、白熱したプレーを見せていました。今回も約2時間のプレー時間はあっという間に過ぎ、年齢やレベルを問わず大いに盛り上がるイベントとなりました。

本イベントの開催にあたり、多大なご協力をいただいた商工会関係者の皆さま、ならびにレッスンコーチとしてご尽力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。おかげさまで、今年も怪我やトラブルなく、参加者の皆さまに存分にお楽しみいただくことができました。商工会のスポーツイベントが、仕事の垣根を越えた地域コミュニティの活性化や人と人とのつながりを深める貴重な機会であることを改めて実感いたしました。今後もスポーツを通じた交流の場を継続的に提供してまいりたいと考えております。

なお、ご好評をいただいております本イベントは、来年も春頃の開催を想定しております。商工会員の方に限らず、どなたでもご参加いただけますので、次回も多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



研修会報告

「The Elections that Could Change Everything: An Insider's Guide to the 2026 Midterms」

講演者：マンズフィールド財団 フランク・ジャヌージー President and CEO

研修担当理事：清水 梨江子／内田 文平



2026年5月27日(水)、ワシントン日本商工会はマンズフィールド財団 President and CEOのフランク・ジャヌージー氏をお招きし、「The Elections that Could Change Everything: An Insider's Guide to the 2026 Midterms」と題する研修会を開催しました。

講師を務めて下さったジャヌージー氏は2014年にマンズフィールド財団のPresident and CEOに就任しました。同財団は1983年に設立された非営利団体で、人的交流事業や対話事業、出版・広報活動を通して、米国とアジアのリーダーのネットワークを育み、公共政策に影響するような重要な課題を探求し、またアジアの国々の人々への理解と関心を高めることを使命としています。

今回の研修会では、ジャヌージー氏のワシントンでの40年にわたる経験と、同財団が持つマンズフィールド・フェローや米国在住のアジア専門家からなる広範なネットワークを活かし、2026年の米国中間選挙がどのように展開する見込みか、その結果が貿易・安全保障政策、日米関係、そして米政府の国内外における行動にどのような意味を持つかについて、率直な分析を披露頂き大変充実したものになりました。

研修会終了後のランチタイムには、親日家で知られるジャヌージー氏が参加者一人一人の席を周り、挨拶や歓談を楽しんでおられた姿が印象的でした。お忙しい中、貴重なお話しをお聞かせ下さり商工会メンバーと交流下さったジャヌージー氏に改めて厚く御礼申し上げます。

商工会では今後も会員の皆様にとって有益な機会となる研修会を企画・運営して参りたいと思いますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。



ワシントンで働く女性の会 (J-WIP) 第34回 活動報告

企画担当理事

2026年6月5日、ワシントンDCで働く女性を応援する J-WIP(※)の第34回スピーカーイベント『『世界一流の社交術』—ワシントンDCで磨く「人間関係力」と関係づくりの実際—』を開催いたしました。

当日は、在米日本大使館でソーシャル・セクレタリーを長年にわたって務めてこられたビューカー清美氏を講師として迎えました。人間関係を築く要諦や、社交の現場で培われた実践的なノウハウについて、幅広くお話を伺いました。

会場には男女問わず約50名の商工会会員・非会員が参加し、ビューカー氏と活発な意見交換を行いました。

ビューカー氏は1994年、在米日本大使館・儀典班(プロトコル)に着任され、ソーシャル・セクレタリー補佐、大使特別補佐、副ソーシャル・セクレタリーを経て、2000年よりソーシャル・セクレタリーを務められています。



写真左:ビューカー清美氏(『世界一流の社交術』著者)

写真右:菱川 企画担当理事

30年以上にわたって要人接遇のほか、国家行事や外交レセプションの企画・運営に従事され、これまでに計9名の駐米日本大使と大使夫人のもとで職務を担われてきました。そのご経験をもとに、近著『世界一流の社交術』を上梓されています。

本イベントではまず、ビューカー氏のキャリアの歩みや、ソーシャル・セクレタリーという職務についてご紹介いただきました。



続いて、現場で培われた具体的な経験談に話題が移りました。社交の場では、たとえ居心地が悪くともまず一歩を踏み出す勇気が必要であることに加え、相手の装いをきっかけに会話を広げる技術など、すぐに活かせる実践的なヒントが数多く共有されました。あわせて、トランプ大統領御夫妻の2019年国賓訪問時における、メラニア夫人のエピソードや、歴代の駐米日本大使にまつわる逸話も披露され、会場の関心を集めました。

最後に、社交の成果は当日すぐに花開くものではなく、地道な積み重ねがあって初めて実を結ぶものであること、そして何よりも「相手に敬意をもって振る舞うこと」を大切にすることが肝要であることが語られました。

今回のイベントは、人間関係の築き方を学ぶだけでなく、文化や立場を超えて相手を思いやる「社交術」の本質を再確認する、非常に有意義な機会となりました。

(注)当イベントは原則オフレコでしたが、講師の了承を得た情報を盛り込んでいます。

※ J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC): ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月から、ワシントン日本商工会として支援

皆様に支えられ、 インテレッセは創業30周年。

Washington, DCを拠点に、日英バイリンガル人材採用と人事クラウドサービスを支援しています。



提供サービス

■ 人事管理クラウドサービス (iiiHR事業)

30年の派遣管理経験から生まれた、人事管理を効率化するクラウドサービス。

主なメリット

- ・人事アドミ: 時間と手間を軽減
- ・法令遵守: 基本的な条項を網羅
- ・クラウドサービス: 利便性を向上
- ・格安なサービス料金: \$480/月~

30日間

無料トライアル実施中!

Email: iiiHR@iiicareer.com
Website: www.iiiHR.com

■ 人材紹介・派遣サービス (iiicareer事業)

DC地域の特性と企業ニーズを理解したきめ細やかなマッチング。

■ 調査業務・各種コンサルティング

市場調査、組織課題の可視化、人事制度改善支援など。

■ 地域情報誌「さくら新聞」発行 (iii-Media事業)

DC地域のコミュニティと企業をつなぐ情報発信。



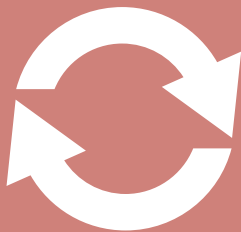
採用・人事・ビジネスに関するご相談は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

interesse international inc.

Email: dc@iiicareer.com Tel: 571-384-7117

1717 K Street NW Suite 900, Washington, DC 20006

登録情報のご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員ともにご登録情報（会員名、電話番号、メールアドレスなど）にご変更がある場合は、お気軽に事務局までメール（office@jcaw.org）にてご連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください！

ワシントン日本商工会 新任理事のご挨拶

新任理事のご紹介を致します。会員の皆様とご一緒にワシントン商工会を盛り立てて参りたいと思っておりますので、ご指導ご支援を宜しくお願い致します。



日本語教育 能勢 裕司（2026年5月～）
Japanese Language Education Support, Yuji Nose
SVP & Head of Washington DC Office
IHI Americas Inc.

2026年5月より日本語教育担当理事を拝命いたしました、米州IHIワシントンDC事務所の能勢裕司と申します。2026年4月に当地に赴任し、近々メリーランド州ベセスダに居を構える予定です。

1995年入社、日本では橋梁部門での経験が長く、直近は全社の官民連携を担当していました。海外駐在はニューヨーク(2006年～2010年)、ベトナム・ハノイ(2019年～2022年)に続き、今回で3度目となります。

ワシントンは世界政治・外交の中心地として、これまでの任地とは異なる雰囲気を感じており、現在のトランプ政権による外交・諸政策の激しい変化や動きの中で日々奮闘されている日本政府・日本企業の皆さまには、深い敬意を抱いております。

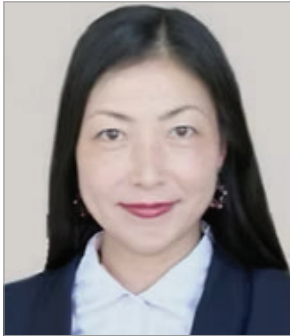
今回、日頃の企業活動の一方で、All Japanとしての商工会活動に参画させていただけることを大変光栄に思っております。日本語教育担当として、日本のファンを一人でも増やし、これからの日米関係を担う人材の裾野を広げられればと思います。

ワシントンでの生活もこれから本格化します。日中に加えて、ゴルフや飲み会など、様々な活動を通して、皆さまとの繋がりを深めつつ、微力ながら商工会の取り組みに貢献して参りたい所存です。

個人的には大食いとランニング(カロリー消費)が趣味、家族は妻と息子(大学2年)、娘(高校1年)がおり、妻と娘の帯同を考えておりますが、目下苦戦しております。

皆さまこれからお世話になりますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

事項に続く



企画 文室 慈子 (2026年5月～)
Events, Yasuko Fumuro
VP & GM, Washington Office
Sumitomo Corporation of Americas

2026年6月、渡米29年目を迎えました。お辞儀の仕方や電話の応答を習いながら始まった社会人人生、当時の広告代理業の①過去の経験則に基づく商習慣(理論的根拠が脆弱)が気になり、②Glass Ceilingが現前と見えたため、離職して、Public Relations 修士を獲るために渡米しました。

2年後、修士は獲ったものの、駅前留学程度の英語力だったため、少し就労経験を積んでから帰国しようと、当時対日ロビーを始めたばかりの共和党系コンサル事務所に就職。米国式ロビー活動を東京で行いました。ファックスを何百枚も送り、ひたすらアポ取りをする地味な仕事ながら、東京でノーベル賞受賞者と夕食したり、米国医師会幹部を茶道体験にご案内したり、楽しい思い出も多々あります。ジャーナリストや議員秘書の方々に医療政策や永田町のしきたりについて教わり、有意義な経験も。

その後、貧困層の金融アクセス改善を目指すスタートアップや日系メーカーの新事業立ち上げ(ソフトウェア開発)でフロリダに移住したり、人生迷い道に入ったこともありました。2017年、縁あって米州住友商事に入社しました。トランプ第一政権1年目、「これからは情報収集だけでは足りない、政府へのアウトリーチが必要」と政府渉外ポジションを新設したと聞いたのは、ゴルフ早慶戦、カート上でした。あれから8年半、総合商社の独特な業態に合う政府渉外活動を日々探求中です。毎日学びがあり、やりがいがあります。

大学院は奨学金を獲れなかったため、一週間の食費は20ドル、外食一切無し、洋服は古着で間に合わせ、というスタートでしたが、米国でなんとかここまでやって来られたのは、たくさんの人に助けていただいたお陰です。

「無駄な経験というものは無い」、渡米時お世話になった某社宣伝部長に教えていただきました。ここまで遠回りすることも無かったか?と思うこともありますが、YOLO -- You only live once。恩返しをしながら前進したく思っております。

嶋田理事退任のご挨拶

嶋田 恵一 Keiichi Shimada
General Manager

Hitachi, Ltd., Washington, DC Corporate Office



2023年11月に商工会理事に就任し、最初の2年間強を企画、その後半年間日本語教育支援を担当させていただきました。企画理事では、米国若手人材に日系企業の魅力を発信する日本大使館・JCAW共催イベントを担当し、その後ワシントン新春祭りのとりまとめをさせていただきました。2025年の新春祭りは2年ぶりの開催となり、場所を従来のホテルからジョージメイソン大学に変更、ワシントン在アメリカ日本国大使館後援の下、地域の日本語教育活動を担っていらっしゃるStudy Japanese in Arlington (SJA)、たんぽぽ学園、ワシントン日本語学校との共催と新しい試みになりました。開催にむけて、運営委員のみなさまの助言をいただきながら、なんとか当日約800人の会員・ご家族のみなさまを無事お迎えできたのは、大変良い思い出となりました。企画・日

本語教育支援理事としての活動を通して、企業や組織の枠を越えた出会い、親交、情報交換の機会がたくさんあり、とても刺激を受けました。6月初旬に日本に帰国いたしますが、ワシントン商工会のますますのご発展を祈念しております。ありがとうございました。

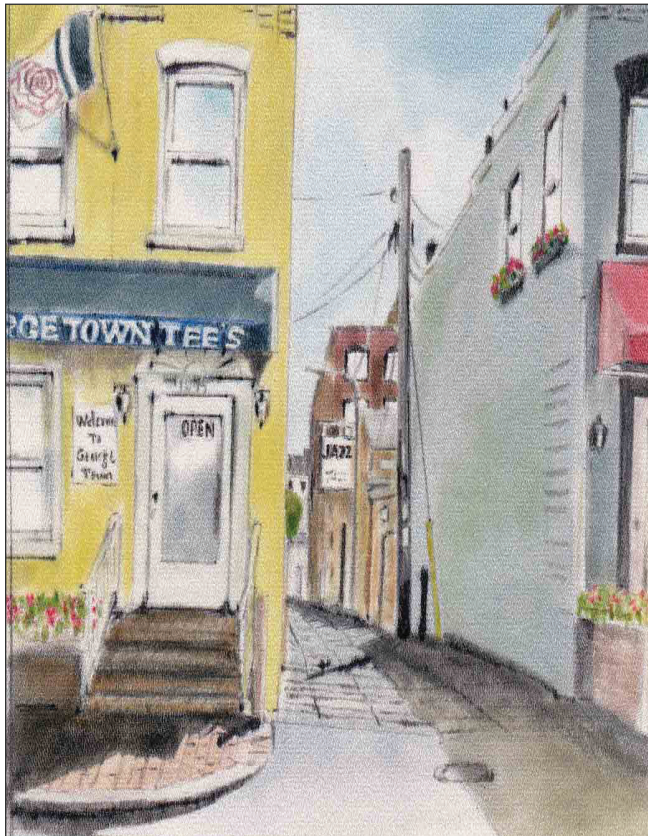


Illustration by Emi Kikuchi



**YAMATO
TRANSPORT
U.S.A.**

**INTERNATIONAL
MOVING SERVICE**



<p>お荷物の多い方!時間のない方! 面倒なお引越は全てまかせて ら〜くらく!</p>	<p>箱に入らない家具や 自転車なども送りたい、だけど安く 済ませたい!そんな方へ</p>
 <p>安心</p> <p>引越 らくらく 海外パック</p>	 <p>丁度いい</p> <p>ベーシックプラン</p>
<p>定形の箱に入るお荷物だけ ご自身で梱包をして節約! すぐに必要ではない お荷物は船便で割安に</p>	<p>定形の箱に入るお荷物だけ ご自身で梱包をされる方 必要な荷物を 最短の所要日数でお届け</p>
 <p>節約</p> <p>単身プランSea</p>	 <p>早い</p> <p>単身プランAir</p>
<p>各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます /</p> <p>www.yamatoamerica.com/cs/</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>フリーダイヤル 1-866-5-KIKOKU</p> <p>日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も!</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>5 4 5 6 5 8</p> <p>米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店 22930 Quicksilver Drive, Unit 115 Dulles VA, 20166 Phone: (703) 661-3501 Email: wasoperat@yamatoamerica.com</p> </div> </div>	

永森理事退任のご挨拶

永森 洋祐 Yosuke Nagamori

Deputy Chief Representative

MUFG Washington D.C. Representative Office



2025年1月より理事を拝命して以来、スポーツイベントの企画を担当して参りました。短い期間ではございましたが、大変貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

在任中は、主にソフトボール、ゴルフ、テニスのイベント開催に携わらせていただきました。もっとも、3つのイベントのうち2回は天候に恵まれず、「雨男」としてすっかり定着してしまいましたが、それも今では良い思い出となっております。

イベントの企画・運営にあたっては、多くの方々に支えていただき、いずれも皆様のお力添えなしには実現できなかったと感じております。その過程で、DCコミュニティの温かさや、所属を越えた強い絆、そして互いに支え合う力を改めて実感いたしました。

皆様が互いに支え合いながら交流を深めていく姿は大変心強く、その関係の積み重ねが日米関係を支える大切な基盤の一つになっていると感じております。スポーツ企画を通じて、少しでもそのような交流の場づくりに貢献できたのであれば、大変光栄に存じます。

世の中が大きく変化していく時代だからこそ、当地でいただいた皆様とのご縁やつながりを今後も大切にしながら、引き続き日米コミュニティへの貢献に微力ながら努めてまいりたいと存じます。

最後になりますが、ワシントン日本商工会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



新会員紹介コーナー

新規会員の自己紹介ページです。今月は個人会員一名から紹介文をいただきました。既存会員による自己紹介機会もございますので、お気軽に事務局(office@jcaw.org)までご連絡下さい。

会員名: 西田 里  sato.nishida1012@yahoo.com

自己紹介・入会動機

夫の転勤に伴い、2025年9月に2人の娘とともにワシントンDCに参りました。2023年に東京で20年近く勤務したフジテレビを退社後、2年間韓国・ソウルで暮らしていました。商工会の活動を通じて多くのみなさまと出会い、交流を深められることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



Illustration by Emi Kikuchi

米国日本通運株式会社は2022年1月より、社名を**NXアメリカ株式会社**へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)

URL: <https://www.nipponexpress.com/moving/us/>



広告募集のご案内

JCAW会報に広告を掲載しませんか？



広告のイメージ図

JCAWは、ワシントンDCにおける日本人コミュニティの重要な情報発信元であり、商工会議所として地域社会において重要な役割を果たしています。

そんなJCAWの会報を通じて、貴社の広告や宣伝を効果的に発信しませんか？

会報の広告にはリンクを設定でき、クリック一つで貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセス可能です。さらに、年間契約でお得なプランもご用意しております。

詳細は、ぜひJCAW事務局までお問い合わせください。

料金体系（2026年1月からのレート）

広告掲載先	サイズ	商工会会員		非会員	
		月料金	年料金	月料金	年料金
会報※	1/4ページ	\$65	\$600	\$100	\$860
	1/2ページ	\$130	\$1,200	\$165	\$1,470
	1ページ	\$260	\$2,400	\$320	\$2,880

※ 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。1年（1月～12月）契約で1回割り引きとなります。（会報は年10回発行）

お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
 1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036
 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948
 Email: office@jcaaw.org URL: www.jcaaw.org

やさしいコミュニケーション 「③ 敬称と役職の関係」

Shiori Communications 岡崎 詩織

政治の町ワシントンDCは、他の都市に比べて、複雑な役職や階級が多い場所です。それに伴い、呼び方も多様になります。今回は、初対面や目上の方と会う時に名前の次に重要となる、敬称について取り上げます。

本題に入る前に、まず、英語のtitleという言葉について。ややこしいことに、これは「敬称」と「肩書」という二通りの解釈ができます。一般的には後者を指すことが多いですし、明確にするには、job titleという表現が使えます。他方、オンライン登録フォームなどで、名前の前に来る敬称を指すこともあります。この場合のtitleは、honorificやsalutationなどと言い換えることができますが、格式張った言葉で伝わりづらいため、こちらから誰かの敬称を確認する時は、Mr.やMs.などと例を出すのが最も分かりやすいでしょう。

下の名前だけでジェンダーが分かるとは限りませんので、Mr.とMs.の間で相手をどう呼ぶか悩むこともあるでしょう。(女性の権利への理解が進んだ今、Mrs.やMissはほとんど使われなくなりました。)女性のRyanさん、男性のTracyさんもいらっしゃるし、SamはSamanthaさんの略かもしれません。対面で会わずメールでやり取りする場合は、組織のウェブサイトやLinkedInなどで写真やshe/herといった代名詞を確認できますし、共通の知り合いにこっそり聞くこともできます。分からない場合、そこまで偉い人でなければ、最初から下の名前でも呼んでも問題ないでしょう。なお、ノンバイナリーの方にはMx.(ミックス)の敬称を使うことができます。

学術関係では、多くの労力と時間をかけてトップの学位を取得した方々に敬意を表し、博士号を持つ人をDr.と呼びます。Mr.やMs.を使うと失礼だと思われ、訂正されることもありますので、経歴をしっかりと確認する必要があります。大学においては、役職がProfessor(教授)でなく、Associate Professor(准教授)やAssistant Professor(助教授)であっても、その人を呼ぶ場合には、Associateなどといった言葉なしに、名字と合わせてProfessor Xavierなどと呼びます。この考え方は、「鈴木助教」「佐藤准教授」と正式な役職を使って呼ぶ日本とは異なると理解しています。



政府では役職が極めて重要で、大統領から次官補代理代行に至るまで、役職と名字を合わせて呼びます。(日本と違って、民間企業や市民団体では、役職を敬称に使うことはあまりありません。)また、大使などの高い地位に就いたことのある人は、経歴ではFormer U.S. Ambassador to Franceなどと書かれますが、その後国務省を辞めて教鞭を執ったりシンクタンクに在籍したりしていても、(Former抜きに)ずっとAmbassadorと呼ばれます。

米国での生活と移民法

第92回「移民法最新情報：FIFAワールドカップ編¹」

米国移民法弁護士 石田 砂織

FIFA ワールドカップ、いよいよ始まりました。今月から7月にかけて、アメリカ、カナダ、メキシコの3か国共催で開催されます。日本チームは初戦でオランダと同点を果たしました。その一方で、連邦議会はワールドカップ開始の数日前に、移民税関執行局(ICE)および税関・国境警備局(CBP)向けに約700億ドルの追加予算を認める法案を可決し、その大部分が退去強制や国境・国内での移民取締り強化に充てられることになりました。これにより、国内各地での捜査・職務質問・摘発が増えることが予想され、ワールドカップ開催と相まって、移民法関係では懸念される面もあるでしょう。こうした状況の中で、観戦を兼ねた出張や家族旅行、カナダ、メキシコへの旅行を予定されている方もいるかもしれません。そこで今回は、ワールドカップ期間中の移民法上の注意点についてお話しします。

<FIFA PASS – ビザ申請の優先予約システム>

毎年、夏になると大使館、領事館でビザの面接予約に通常よりも時間がかかりますが、米務省とFIFAは、FIFA Priority Appointment Scheduling System(通称「FIFA PASS」)という優先面接制度を導入しました。² これは、米国内で開催される試合のチケットを保有していることをFIFA側で確認できた渡航者に対し、通常より早いビザ面接枠へのアクセスを可能にする任意参加の制度です。

優先予約の仕組みは、チケット購入時または購入後にFIFAチケットオフィスから案内される方法に従ってFIFA PASSを選択すると、専用の仕組みを通じて各国の米国大使館・領事館で通常より早い面接日程を予約できる可能性があります。

FIFA PASSはあくまで早く面接を取るための仕組みであり、ビザ審査の基準自体に変化はありません。滞在目的、滞在計画、帰国意思等について通常どおりの審査を受けることになり、ワールドカップ試合観戦チケットがあるからといって審査が緩くなるわけではありません。また、去年よりほとんどのビザ申請者にはSNSアカウントの開示が必要となり、SNSの内容を調べられることから、面接後にビザが発行されるまで時間がかかることもあります。

1 本文に書かれている情報は、執筆時点のもので、その後の法改正などは反映していません。また、本文の内容は具体的な個別事案に関して法的なアドバイスをするものではありません。

2 参照: <https://www.state.gov/fifa-world-cup-26-visas/> 及び <https://www.state.gov/fifa-world-cup-26-visas-pass-faq>

2026年7月1日以降、750ドルの追加手数料を支払うことで、10営業日以内の面接枠を確保できる一般的な有料の優先面接予約制度も導入される予定³ですが、こちらは、B(観光・商用)ビザを申請する方が対象であり、駐在員や学生ビザなどを申請する場合は利用できません。また、日本人の多くはビザなしのESTAを使うことが多いため、利用する方は少ないでしょう。

<入国審査やアメリカ国内で渡航する場合の注意点>

まず前提として、ワールドカップ期間中は、米国への国際線・国内線ともに旅客が大幅に増加し、空港や国境でのセキュリティが強化されると見込まれます。具体的には、米国運輸保安局(TSA)による保安検査の強化やCBPによる入国審査に時間がかかる可能性もあるでしょう。

非移民ビザやESTAで入国する日本人であっても、質問内容が通常より詳細になることが考えられます。ワールドカップ観戦のチケットを持っていても入国手続きがスムーズに行くとは限りません。入国審査の際には、滞在目的、滞在先、勤務先、予定している試合観戦の有無など、基本的な質問には落ち着いて答えられるようにしておきましょう。また、ESTAを利用してビジネスと観戦を組み合わせた短期出張の場合、主目的がどちらなのかを明確に説明できることが大切です。仕事の予定や会社からの依頼を示す書類(招聘状、行程表など)を携行しておく、入国審査での説明がしやすくなります。

永住権者は、米国への再入国を拒否されることは原則として多くはありませんが、米国外の滞在が長期化している場合には注意が必要です。6か月を超える不在が続くと、入国時に「米国居住を放棄しているのではないかと疑われ、帰米のたびに質問が厳しくなることがあります。1年以上の不在は、居住放棄の認定リスクが一気に高まるため、長期出張や観戦旅行を組み合わせる際は、事前に弁護士に相談されることをお勧めします。

電子機器の検査について

CBPによる電子機器検索の件数は増加傾向にあり、2025年には入国審査での電子機器検査が過去最多となり、前年から約17%増加したとの報告もあります。⁴ ワールドカップ期間中は、観戦目的の渡航者の増加に伴い、一定のサンプル検査やリスクプロファイルに基づく追加検査が増える可能性があるでしょう。

CBPは、入国審査の一環として、手荷物や身体検査に加え、パソコンやスマートフォンのパスワード開示やロック解除を求めることがあります。永住権者は、入国拒否をされない範囲で一定の権利を主張することが可能ですが、非移民ビザやESTA利用者は、パスワード開示を拒否すると入国拒否のリスクがあります。

3 <https://www.federalregister.gov/documents/2026/06/09/2026-11513/schedule-of-fees-for-consular-services-department-of-state-and-overseas-embassies-and>

4 <https://www.cbc.ca/news/politics/united-states-customs-border-protection-phone-search-9.7118271>

原則として検査対象となるのはデバイス本体に保存されているデータであり、CBPがクラウド上に保管されたファイルへ能動的にアクセスすることは、犯罪疑惑など特定の理由がない限りないとされています。もっとも、実務上は、検査時に端末がインターネットに接続されていると、メールやクラウドサービスに事実上アクセスできてしまう余地もあり、境界線は必ずしも明確ではありません。このため、検査リスクを最小限にするためには、検査されても問題のない最小限のデータだけが入っている端末を用意し、クラウドサービスからログアウトしておく、入国審査前に機内モードにするといった準備をしても良いかもしれません。

また、機密情報や個人情報を扱う職種に携わる方は、もし電子機器検査への協力を求められた際、デバイスに業務上の守秘義務で守られたデータがあると説明することも重要です。そうすることで、電子機器検査の方針に詳しい監督者、管理者と対応することができ、秘密情報の入ったフォルダやアプリなどのアクセスを防ぎ、守秘義務に反することがないような検査を要求できます。

<アメリカ滞在中、及び国内移動の際の注意点>

移民・税関執行局(ICE)は、ワールドカップ警備の一部として関与する方針を示しており、スタジアム周辺や道路上など、公の場では移民当局や警察から質問を受けることがあります。基本的に、暴力的に抵抗しないこと、虚偽の説明や偽造書類を渡さないことが大原則です。自分が自由にその場を離れてよいか確認する権利や、むやみに所持品の搜索に同意しない権利はありますが、状況によってはその場での判断が難しいことも多いため、困ったときにはまず誰に連絡するかをあらかじめ決めておくとい良いでしょう。

また、試合会場となる都市間を車で移動する場合、特に南部国境に近い地域では、CBPによるハイウェイチェックポイントや移動検問が存在し、移民法違反の疑いがあれば車両停止や質問が行われることがあります。テキサスやフロリダ、ジョージア、ミズーリなど一部の州では、地方警察が交通違反等の取締りを契機に移民ステータスを積極的に確認し、ICEへの通報や身柄引き渡しを行うことが可能です。一方、カリフォルニア、ニュージャージー、ワシントンなどの州やボストン市などは、州法などでICEとの協力を制限しており、相対的にリスクは低いかもしれません。観戦スケジュールを組む際には、これらの州ごとのリスクプロファイルを踏まえた移動計画を検討すると良いでしょう。

外国人登録、書類携行義務

米国移民法上、30日以上アメリカ国内に滞在する14歳以上の外国人は、外国人登録をする義務があります。⁵ ただし、実務上は、アメリカのビザ申請時や入国時に指紋採取を受けている場合がほとんどで、その時点で登録済みとみなされています。

⁵ <https://www.uscis.gov/alienregistration>参照。14歳未満の外国人については、その親または法定後見人が登録を行う責任を負います。さらに、14歳の誕生日を迎えた時点で、すでに登録済みの外国人は、再登録および指紋採取の申請を30日以内に行う必要があります。現在登録義務が免除されている外国人は、アメリカ滞在期間が30日未満の者とAビザ、またはGビザを持つ外交官及び国際機関の職員及び帯同家族等です。

このように、日本人の場合は大半が登録を済ませていますが、登録を証明する書類を随時携行する義務もあるので注意が必要です。例えば、永住権保持者であれば、グリーンカード (Permanent Resident Card)、就労ビザ保持者であればパスポートに貼付されたビザスタンプおよびI-94の情報が外国人登録証に相当する書類として扱われています。⁶ 連邦法は、これらの登録証明書を18歳以上の外国人が常時携行することを求めており、これに違反した場合、5,000ドル以下の罰金または30日以下の拘禁、またはその両方という軽犯罪として規定されています。

特に、車での移動中に警察に停車を求められた場合や、スタジアム周辺での職務質問を受けた場合に備え、少なくともパスポートのコピーとI-94情報、永住権者であればグリーンカードを携行するよう心がけましょう。

<カナダ、メキシコからアメリカに再入国する場合—自動ビザ再認証(AVR)>

すでにアメリカに駐在されている場合は、ワールドカップ期間中米国に拠点を置いたままカナダやメキシコへ試合観戦に行き、その後米国へ戻るというパターンも想定されます。このような場合は、自動ビザ再認証(Automatic Visa Revalidation, AVR)といった制度を利用してアメリカに再入国できます。

自動ビザ再認証とは、ビザスタンプが期限切れでも、I-94が有効であれば、カナダまたはメキシコからの短期旅行後に米国への再入国が認められる制度です。実質的には、アメリカを出国しなかったかのように、現在持っているI-94に記載されているビザステータスで再入国し、I-94の期限まで滞在し、就労が可能となります。

基本的に自動ビザ再認証を利用するには、以下の条件を満たす必要があります。

- 有効なビザを必要とする非移民ステータスで米国に滞在していること(E、L、H、O、F、Jなど)
- カナダまたはメキシコへの滞在が30日以内であること
- 旅行中に米国大使館・領事館で新たなビザ申請を行っていないこと
- 旅行がカナダ、メキシコ以外の第三国を含まないこと
- パスポートが有効なこと

例えば、Eビザ所持者はアメリカに入国する度に2年間有効なI-94が発行されるのが一般的です。ところが、5年以上アメリカに駐在されている場合は、I-94有効期間中にビザが失効するという場合があります。このような場合、通常ビザを更新してからでないとアメリカに再入国はできません。ただし、アメリカから直接カナダやメキシコに短期間渡航した場合は、自動ビザ再認証の制度のもと、I-94が有効な限り、ビザが失効していてもアメリカに入国することができます。

⁶ <https://www.uscis.gov/alienregistration>参照。外国人登録義務と証明書類の携行義務に関しては2025年4月号でもう少し詳しく説明しました。

今月の書籍紹介

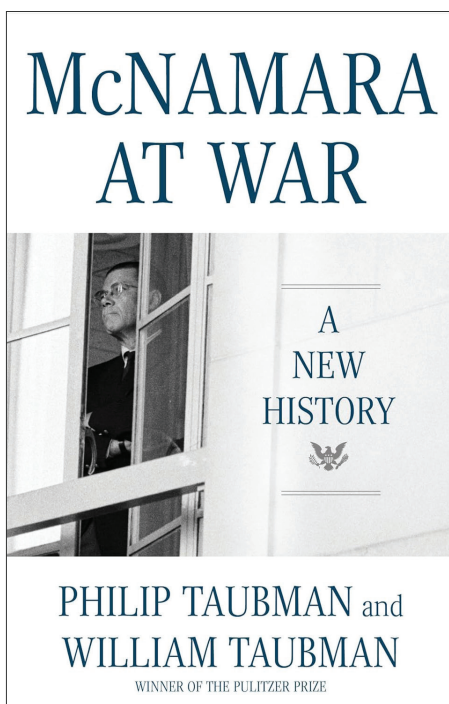
米国が敗戦していたら戦犯になっていた

卓越し成功することへの欲求、職位維持願望でベトナム戦争の悲惨な役割から逃れられなかった

「マクナマラの戦争」

フィリップ・タウブマン、ウィリアム・タウブマン

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「マクナマラの戦争」
フィリップ・タウブマン、
ウィリアム・タウブマン(ノートン)

本書はタウブマン兄弟の力作だ。ロバート・マクナマラについては本人の回想録を始め多数の本がある。が、本書は新たに母や妻、ジャッキー・ケネディとの書簡、最近発見されたマクナマラの側近の日記や息子クレイグの回想録をもとに、彼の人生とキャリアを形成した心理と感情を描いている。

フィリップ・タウブマンは元NYタイムズ・ワシントン支局長で、著書にはレーガン政権国務長官・ニクソン政権財務長官だったジョージ・シュルツの伝記等がある。兄ウィリアムは元アマースト大政治学教授。ソ連に精通し、著書にはスターリンの対米政策、ゴルバチョフの伝記、ピューリッツァー賞受賞フルシチョフの伝記がある。

アイルランド大飢饉移民子孫のマクナマラ。父はセールスマンで、カリフォルニアの中流家庭に育った。頭脳明晰でハーバード・ビジネス・スクール卒。短期プライス・ウォーターハウス勤務後、同校で教壇に。

一年後、真珠湾攻撃のニュースを教員宿舎で聴き、大戦中は陸軍航空隊で活躍。統計管理局で、日標破壊に関連する要員及び物資の可用性、訓練水準及び有効性を担当。カーティス・ルメイ大佐下での活動が有名だ。

マクナマラは爆撃機の空爆任務の20%という高い中断率に関する調査で、原因は隊員が撃墜を恐れ、こじつけの理由で任務放棄していると報告。この報告書を受けて、ルメイは今後、全任務で自らが先陣の爆撃機に搭乗し、出撃した全爆撃機は攻撃日標に到達し、これを達成しない者は軍法会議にかけて処分すると命令し、任務中止率は激減。

またマクナマラが考案したB-29がヒマラヤ越えて燃料と物資を輸送する輸送機を兼ねるスケジュールや、ジェット気流に関する分析は第21爆撃軍の作戦に影響を与え、ルメイが日本に対する低高度焼夷弾攻撃を開始する決断を下す一因となった。ただし、マクナマラは日本本土への無差別絨毯爆撃という形の民間人を狙った大量殺の倫理性についてルメイに抗議した。ドキュメンタリー映画では、米国が敗戦していたら、ルメイも自分も戦犯になっていたはずだとも述べている。

1946年に除隊したマクナマラは、統計管理局の上司とともにフォード・モーターに幹部候補生として勤務。創設者時代からの伝統に縛られ、非効率だったフォードを大胆なリストラと不採算工場閉鎖により、コストを大幅に削減し効率性を高めた。60年には同社で初のフォード一族以外の社長に就任。

ところが社長就任5週間後マクナマラは、選直後のケネディに国防長官職を打診される。最初は大戦後の軍事事情に詳しくないから適任ではないと断ったが、自分の部下を選ぶことを条件に受諾した。

国防省ではシステム分析を導入し、国防に必要な要素、費用対効果を統計的に分析し、長期の国防予算を立案し、不要な軍事基地は閉鎖し、国防予算の削減に努めた。1962年のキューバ・ミサイル危機では、ソ連の船舶と戦闘状態に陥ることもなく、海上封鎖と臨検に成功した。

しかし、特に思い浮かぶのは、「マクナマラの戦争」とさえ呼ばれたベトナム戦争だ。南ベトナム政府軍視察後、勝利は可能だと南ベトナムに対する軍事援助と米軍の派兵を拡大させた。だが1963年11月にケネディが暗殺されていなかったら撤退していた可能性もあったという。(ジャッキー・ケネディとマクナマラは同じ文学や音楽を好み、両氏の親交は夫の死後も続いた。)

ジョンソン政権でも国防長官を留任。1965年に崩壊寸前の南ベトナム政府を救うために米陸軍部隊を投入する判断の賢明さについて深い疑念を抱いたが、1967年末までに48万5,000人を投入。ケネディ暗殺の衝撃、ジョンソンの魅力と圧力、「卓越し成功する」ことへの欲求、職位維持への願望が悲劇の原因だと著者は解説する。

勝利が可能か懐疑的になり、何度も現地を視察し、1967年の11月初旬、北爆の停止とベトナム戦争介入の段階的な縮小を提案したが、ジョンソン大統領は拒絶。1968年11月末には辞意が表明され、世界銀行総裁に就任し、上司のない職に初めて就いた。

ベトナム戦争の教訓は、イラク、アフガニスタン戦争の惨事回避に役立ったはず。自らの評判を取り戻し、説明しようという努力にもかかわらず、マクナマラのレガシーはベトナム戦争の悲惨な役割から逃れることはできなかった。

(NEW LEADER 2026年4月号から転載)

English Rescue by Jennifer: 「Language and Culture」

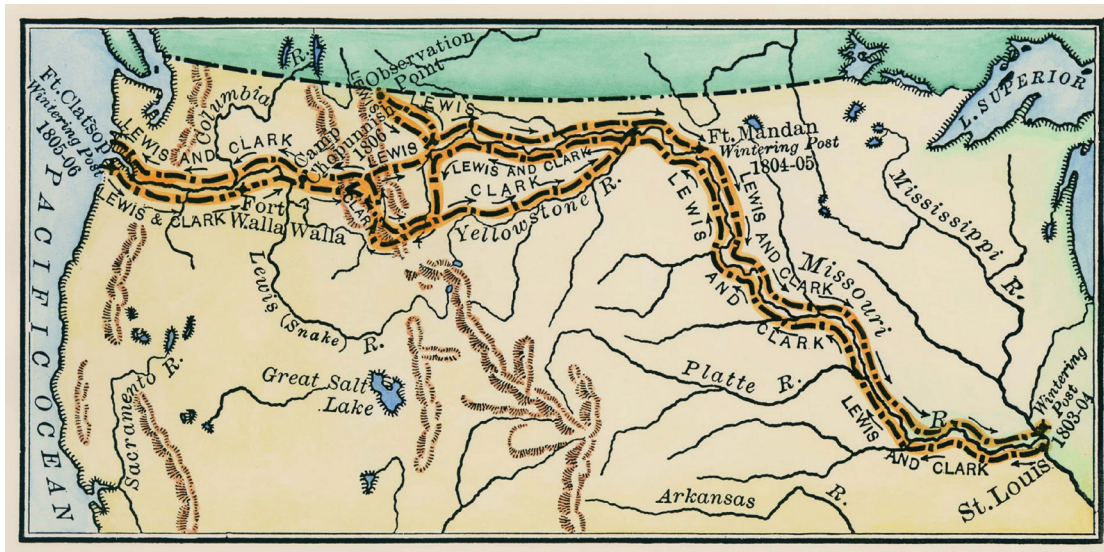
ジェニファー・スワンソン

The 250th anniversary of the United States in 2026 offers an opportunity to reflect on the nation's history, ideals, and shared heritage. The National Park Service plays an important role in preserving the landscapes, historic sites, and monuments connected to America's founding and development—from Revolutionary War battlefields to civil rights landmarks. During this anniversary year, national parks provide meaningful places for Americans and international visitors alike to learn about the country's past while recognizing the importance of protecting these sites for future generations.

In this series, we are highlighting national parks that commemorate important chapters of American history. So far, we have explored **Yellowstone National Park (Wyoming)**, **Independence National Historical Park (Philadelphia)**, **Great Smoky Mountains National Park** - home of the Cherokee people and Appalachian Mountains and culture, **Saguaro National Park (outside of Tucson, Arizona)** and **Biscayne National Park (South Florida)**.

Lewis and Clark National Historical Park: Reflecting on America's Journey at 250 Years

As the United States prepares to celebrate its 250th anniversary in 2026, **Lewis and Clark National Historical Park** provides an opportunity to reflect on the nation's history, growth, and changing identity. Located on the Oregon coast near Astoria, the park preserves the site where the Lewis and Clark Expedition reached the Pacific Ocean and spent the winter of 1805–1806 at Fort Clatsop.



The Lewis and Clark Expedition began in 1804, shortly after the United States completed the Louisiana Purchase, a major land acquisition that nearly doubled the size of the young nation. President Thomas Jefferson sent Meriwether Lewis, William Clark, and the Corps of Discovery to explore the new territory, study its geography and natural resources, and search for a possible route to the Pacific Ocean. Their journey across the continent became one of the most important exploration efforts in American history.

Reaching the Pacific Coast was a symbolic moment for the growing nation. The expedition helped Americans better understand the vast landscapes, rivers, plants, animals, and resources of the West. Their maps and observations encouraged future settlement, trade, and transportation routes. The journey also contributed to the idea of a nation connected from the Atlantic Ocean to the Pacific Ocean.

However, the story of Lewis and Clark is also a reminder that American history is complex. The expedition took place on lands that were already home to many Native American nations with their own histories, cultures, and traditions. The explorers relied on the knowledge, assistance, and trade relationships of Native communities, including the Clatsop people, whose homeland surrounds the park today. Their contributions were essential to the expedition's survival.

Sacagawea was a Shoshone woman who played a key role in the Lewis and Clark Expedition. She is often remembered as an interpreter and guide, helping the expedition communicate with Native nations—especially the Shoshone—so they could secure horses and cross the Rocky Mountains. She also helped with finding food and navigating unfamiliar terrain. Sacagawea's story highlights how Indigenous women's knowledge and resilience were essential to major historical events, even though their contributions were often minimized or told through the perspectives of men. Traveling with her infant son, she also challenged the idea that exploration and leadership were only male roles, showing strength, adaptability, and survival in extremely difficult conditions. Her legacy is now increasingly seen not just as a supporting figure, but as an important cultural and diplomatic bridge whose presence shaped the success of the expedition.



A half-day visit to **Lewis and Clark National Historical Park** near Astoria, Oregon offers a compact but meaningful experience combining history and nature. Most visitors begin at the Fort Clatsop Visitor Center, where exhibits and a short film introduce the Lewis and Clark Expedition's challenging winter of 1805–1806 and highlight the perspectives of the Clatsop and

Chinook peoples. A short walk leads to the reconstructed Fort Clatsop, where you can explore a replica of the original wooden fort and learn how the Corps of Discovery lived, worked, and survived in the coastal rainforest. From there, the nearby Netul River Trail provides an easy, scenic walk through forest and wetland areas with opportunities to see birds and enjoy the quiet landscape. If time allows, a quick stop at the Salt Works site adds another layer of history, showing how the expedition produced salt to preserve food for the return journey. In just a few hours, the park offers a balanced mix of living history, Indigenous connections, and peaceful coastal scenery.

- <https://www.nps.gov/lewi/index.htm>
- <https://www.history.com/articles/lewis-and-clark>
- <https://lewis-clark.org/primary/members/>
- <https://lewis-clark.org/members/sacagawea/>



～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店:Jennifer Swanson/四軒家 忍(著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

jenniferswanson.org



6月編集後記

6月に入り、ワシントンDCでは真夏を思わせるような暑さの日が続いたかと思えば、突如として雷雨に見舞われるなど、不安定な天候が目立つようになってきました。まさに季節が夏へと移り変わる時期であることを実感させられます。

こうした中、6月14日に行われたUFCの開催に際しては、市内中心部で大規模な交通規制や道路閉鎖が実施され、移動に影響を受けた方も多かったのではないのでしょうか。日常生活の中で、改めてDCという都市のダイナミズムを感じる出来事となりました。

また、世界に目を向けると、ワールドカップが開幕し、日本代表がオランダとの初戦で互角に渡り合うなど、スポーツの話題が大きな注目を集めています。こうした明るいニュースが、日々の生活に前向きなエネルギーを与えてくれていると感じます。

一方でビジネスの観点では、多くの日系企業にも影響を及ぼし得るUSMCAの具体的な見直し交渉が、二国間レベルではありますが徐々に動き出しており、今後の展開が注目されます。また、世界情勢においても、米国とイランが停戦で合意したとの報道がなされるなど、先行きの不透明さが続く中でも、一定の変化の兆しが見られています。こうした動きは、私たちを取り巻くビジネス環境が引き続き変化の只中にあることを改めて示していると言えそうです。

季節の変わり目で体調を崩しやすい時期でもありますが、皆さまにおかれましては、どうぞご自愛のうえお過ごしください。

芦澤・岡本

会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。
